

## 1.29 年度検証

- ① 今年度は人身事故が貸切 1 件、特定 1 件があり非常に残念な結果でありました。ETC の誤作動による事故で直接的な事故でなかったものの ETC バーでの徐行義務である 20 キロ以下を 22 キロでの走行でありルール違反での事故であります。しかし、シートベルトはお客様に案内しており怪我をされた方は着用をしていなかった原因でもあります。更なるシートベルト着用の案内を教育していきたいと思えます。特定はぶつかっていないものの近づいたことによる横転事故であり弱者への配慮をとということも教育する必要があります。またバスガイドが乗車していたにもかかわらず、バック事故がありました。改めてルール遵守の行動をしなければならない安全という風土を社内でも創り上げていかなければならないと考えます。以上、防止できる方法論は
- ② 種別の原因は下記の通り。
- ① ETC 誤作動による事故 870,000 円
- ② ジャスコバスの追い越し自転車が転倒 47,367 円
- ③ 駐車場のステップにぶつける。(乗務員の怠慢) 132,336 円
- ④ 一の坊のエントランスにバスの上をぶつける (誘導係のミス) 640,678 円  
など
- ⑧ 経費実績
- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| ドライブレコーダー、デジタコの新規購入 | 7,000,000 円              |
| 車両システム (バス紀行)       | 400,000 円                |
| 適性診断                | 50,000 円 (高齢者は 2 年に 1 度) |
| 外部講師                | 30,000 円                 |
| 月一回の安全会議            | 120,000 円 (会議場代ほか)       |
| 車両維持 (塩害ガード)        | 2,500,000 円              |

## 2.総論

- ① 3 年連続同じ目標を掲げ行ったが特に労務管理においては連続運転が 22 件という残念な結果です。(これは新しいデジタコの時間と乗務員の時計の誤差がほとんど)
- ② 物損事故は 6 件であり乗務員の怠慢による物損事故、ホテルの誘導ミスによる事故があり安全への心の持ち方をさらに高めることが必要である。
- ③ スピード違反はほとんどなくこれからも継続できるよう指導していきたいと思えます。

### 3.改善策

- ①同じ乗務員の連続運転があり事故起こしやすい乗務員として特別指導をする。
- ②事故ゼロは我々の最大目標であるため、1件でも減らすよう安全会議をより多く開催し  
運行管理、手配、乗務員一同、事故ゼロに向かって業務の在り方を見直す。  
(例：お客様からの最終コースをより早くもらい、乗務員により早く渡す。渡すことにより  
乗務員がより行程の打ち合わせができるため内勤と乗務員のコミュニケーションの強化)
- ③連続運転においては目標に掲げながらあるため、会議時乗務員同士にて解決策を見出す  
方法を討論会を行う。
- ④新しく購入したドライブレコーダーによるヒヤリハットの収集、活用をさらに増やして  
いきたい。

### 4 目標/数値

- (1) 重大人身事故（第一当事者） 0件（29年度0件）
- (2) (1)以外の人身事故 0件（29年度2件）
- (3) 有責物損事故対前年比 2件（6件）
- (4) クレーム件数 1件（1件）
- (5) ～30年度安全目標～
  - 1.連続運転の撲滅（点呼の際、連続運転しやすい行程は必ず、アドバイス）
  - 2.デジタコ、ドライブレコーダーの活用（ヒヤリハット収集）
  - 3.重大事故ゼロ、物損事故（有責）2件
  - 4.シートベルトの案内を出発毎、DVDを必ず放映しよう。

～私たちは日本一感動を与えるバスを目指します！！

### 5.予算

- (1) (1) 車両管理システム（バス紀行）の推進 400,000円
- (2) 適正診断の積極的受講、外部講師、月一回の安全会議 300,000円
- (3) 塩害による下回りの補強 2,000,000円
- (4) 携帯アルコールチェッカー2台購入
- (5) バス協会主催による研修の積極的参加 50,000円

平成30年3月10日

安全統括者 池田 新